



ViCO
Technologies

2022年 3月期 2nd QTR 決算補足説明資料

ヴィスコ・テクノロジーズ株式会社



2021年 11月11日

証券コード:6698

1. 2022年 3月期 2nd QTR 決算概要

2. 2022年 3月期 通期業績見通し

1. 2022年 3月期 2nd QTR 決算概要

2. 2022年 3月期 通期業績見通し

事業概況

- 5G関連、民生機器、車載向けの需要好調で前年同期対比増収増益
- 売上高：
 - ✓ 民生機器用及び車載用向けが伸長、合わせて5G向け関連の1st QTR大型案件受注により半期過去最高の売上高となった
 - ✓ 海外向けが好調。中国、タイ、マレーシア向けが伸長、韓国向けも前年上期の落ち込みから回復
- 営業利益：

人的投資継続による費用増加はあったものの、営業利益率18.1%確保（前年同期15.6%、+2.5pt）

開発投資

- 汎用製品としての強みを活かし、あらゆる分野で検査が可能な機能の強化
- AI活用などの研究開発投資継続
- 人的投資による開発人材育成の継続

人材開発

- 従業員に対するインセンティブ制度の導入（株式給付信託〈J-ESOP〉）
- 営業及び技術サポート体制強化のため、大阪営業所人員増強、事務所拡張（移転）

2022年 3月期 2nd QTR 連結決算ハイライト

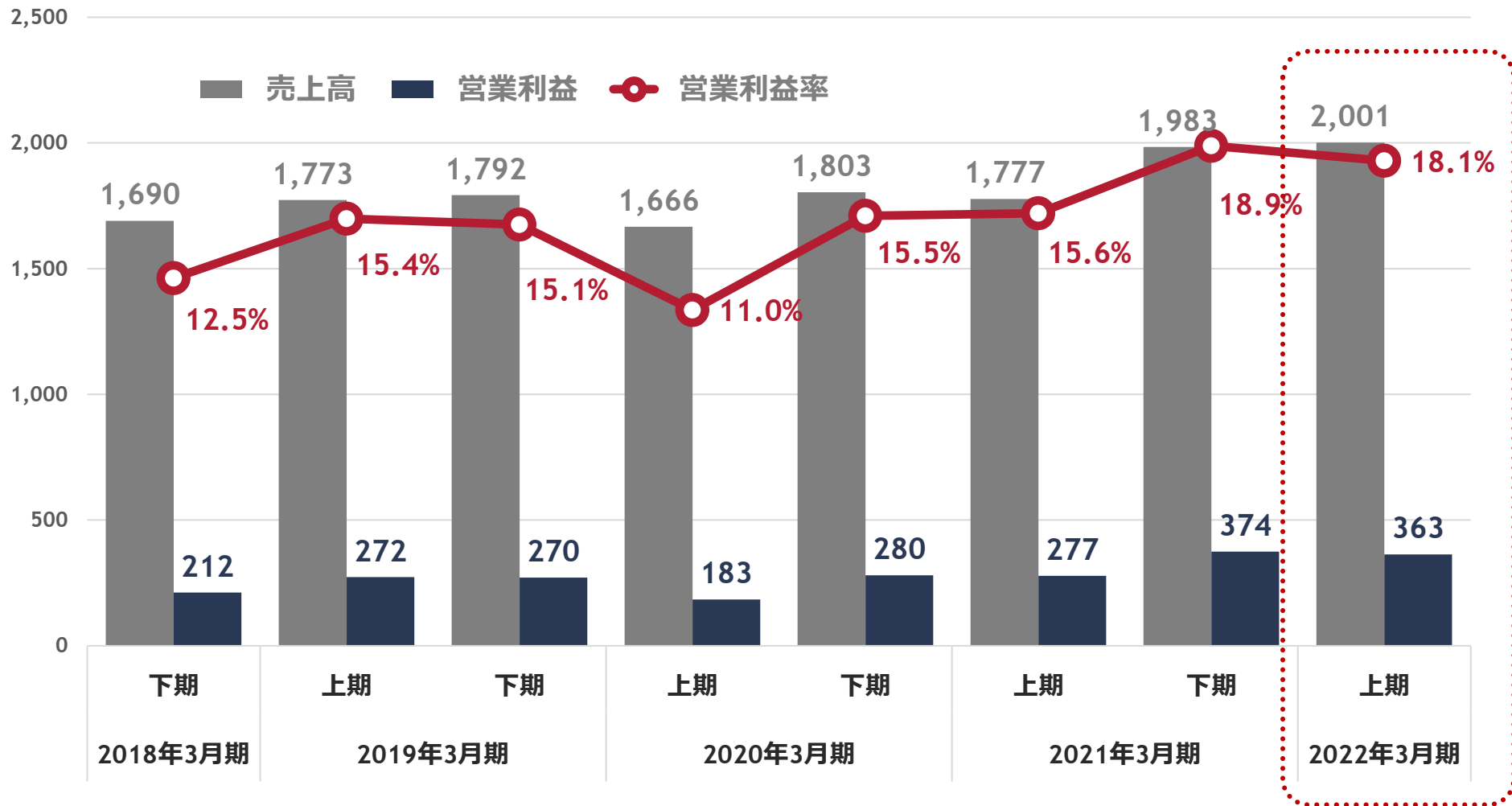
- 民生機器、車載関連用途が増加
- 前期4th QTRからのスマホ5G関連大型設備投資による需要は1st QTRで一段落
- 中国、タイ、マレーシア向けが伸長、韓国向けも前年上期落ち込みから回復
- コロナ過による営業活動制限は徐々に解除されつつあるが、想定より遅れている。その結果、当初見込よりも営業関連費用は減少

(単位：百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2022年3月期	前年同期 比較	同期予想 比較
	上期実績	上期予想	上期実績		
売上高	1,777	2,010	2,001	+224 112.6 %	▲8 99.6 %
営業利益	277	300	363	+85 130.7 %	+63 121.1 %
経常利益	273	290	376	+102 137.3 %	+86 129.7 %
親会社株主に帰属する純利益	173	190	245	+71 141.0 %	+55 129.1 %
1株当たり純利益 (単位：円)	27.16	29.88	39.15	+11.99 -	+9.27 -

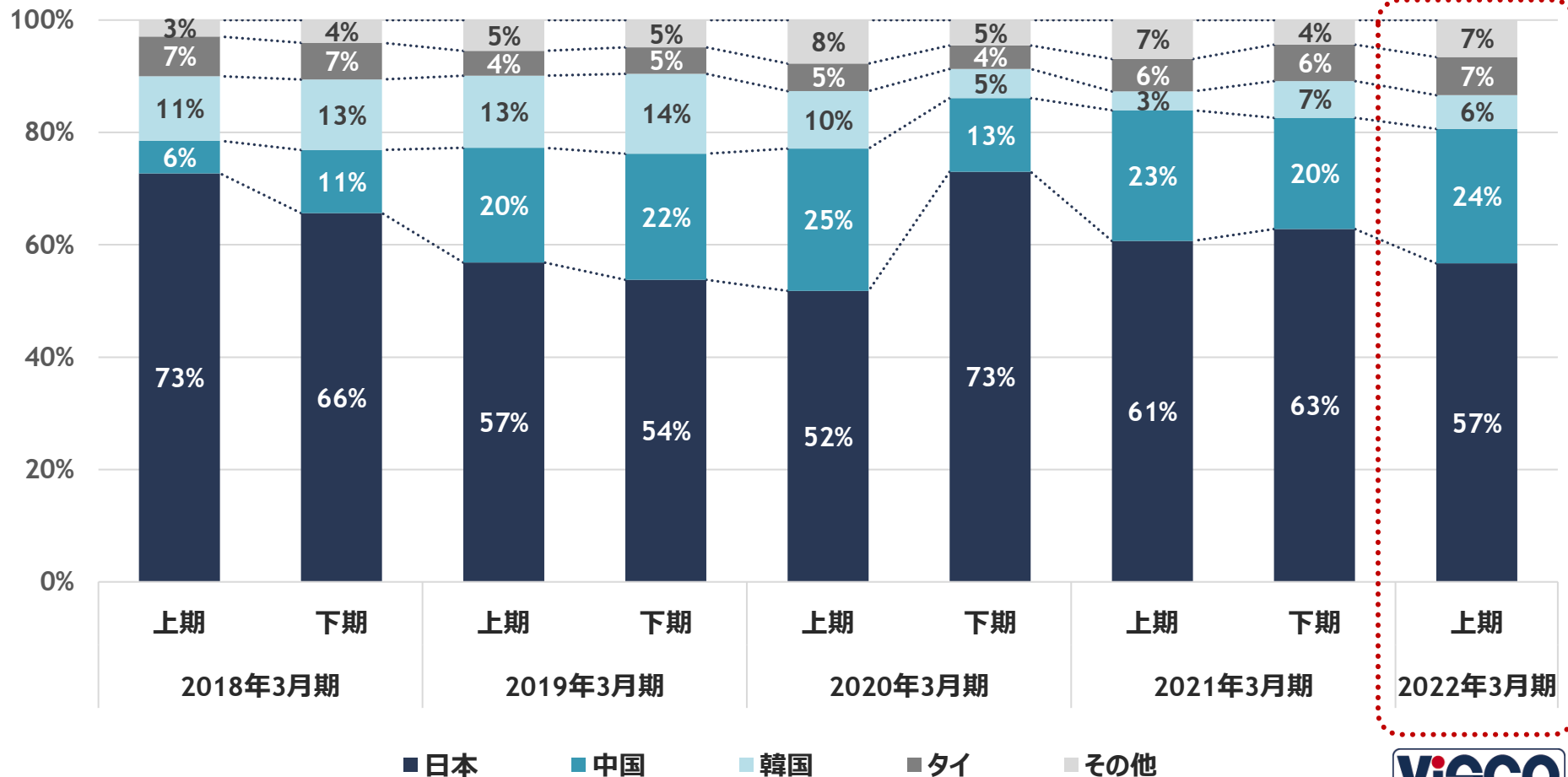
連結売上高・損益推移

(単位：百万円)



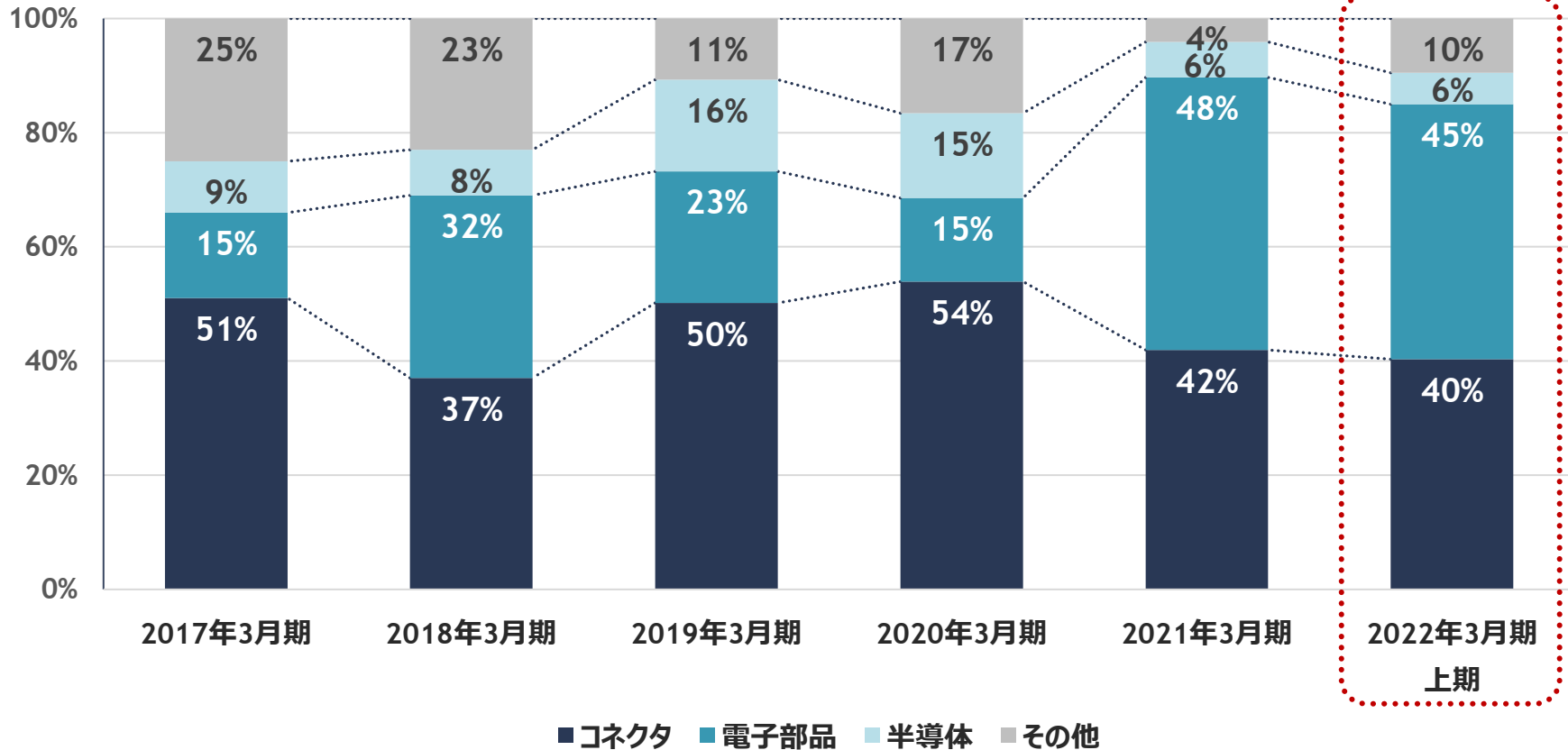
得意先地域別売上高推移(連結)

- 海外比率の推移は、前期末対比で 6Pt 増加（前年同期比 +4Pt）
- 中国での売上が好調維持、当社拠点のあるタイ及びマレーシアでの売上也伸長
- 韓国での売上が前年下期以降回復



検査用途別売上高構成推移(連結)

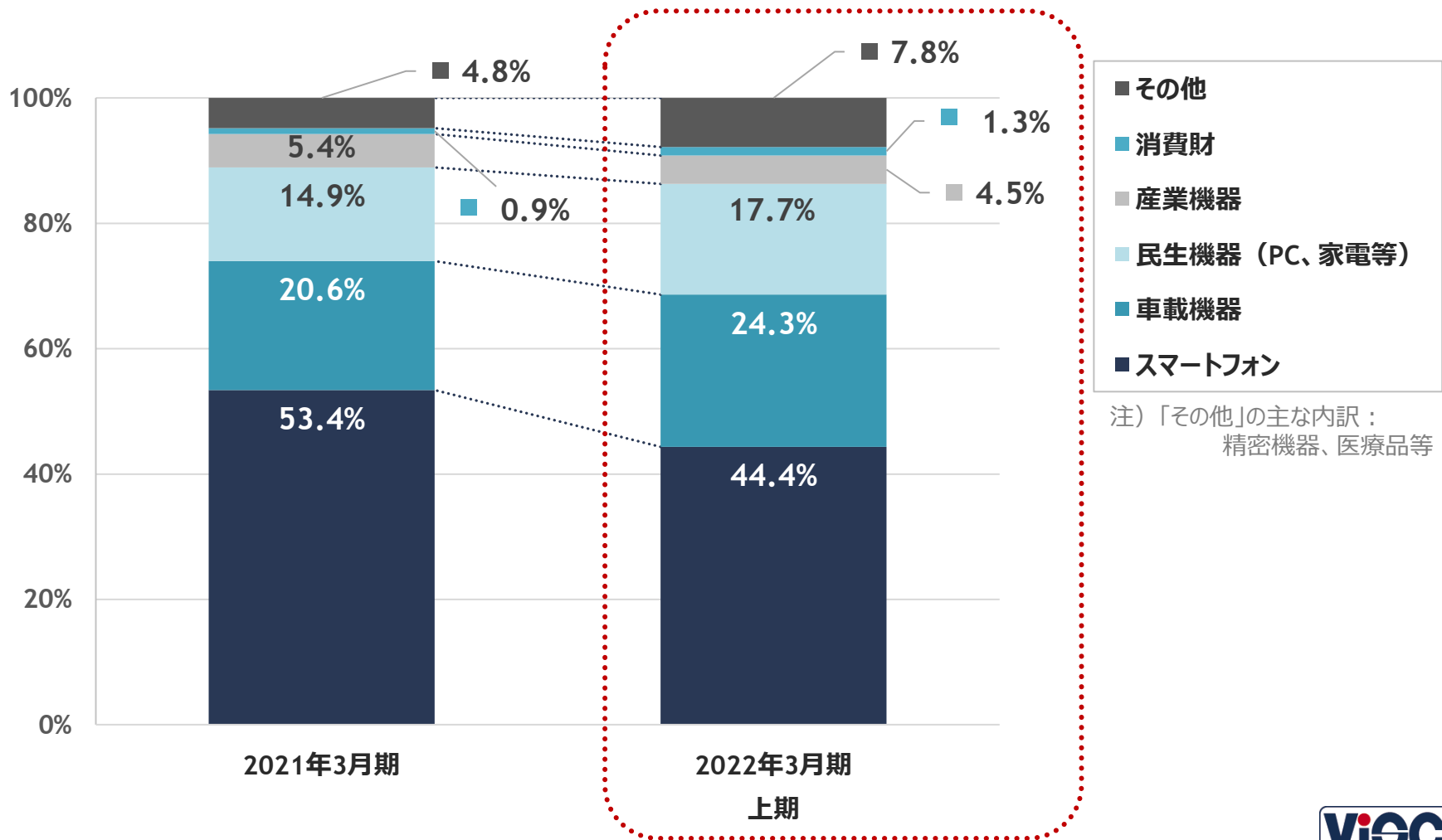
- 主力コネクタ用途は車載用及びスマホ用を中心とした韓国向けが回復
- 電子部品向けはセラミック部品、MEMS向けを中心に堅調
- 機械部品、ボトル検査用など「その他」用途が増加



注) 従来「その他」の用途に含めていた内容を精査し、LED検査など、一部電子部品領域に近いものを2021年3月期より「電子部品」にて集計しております。

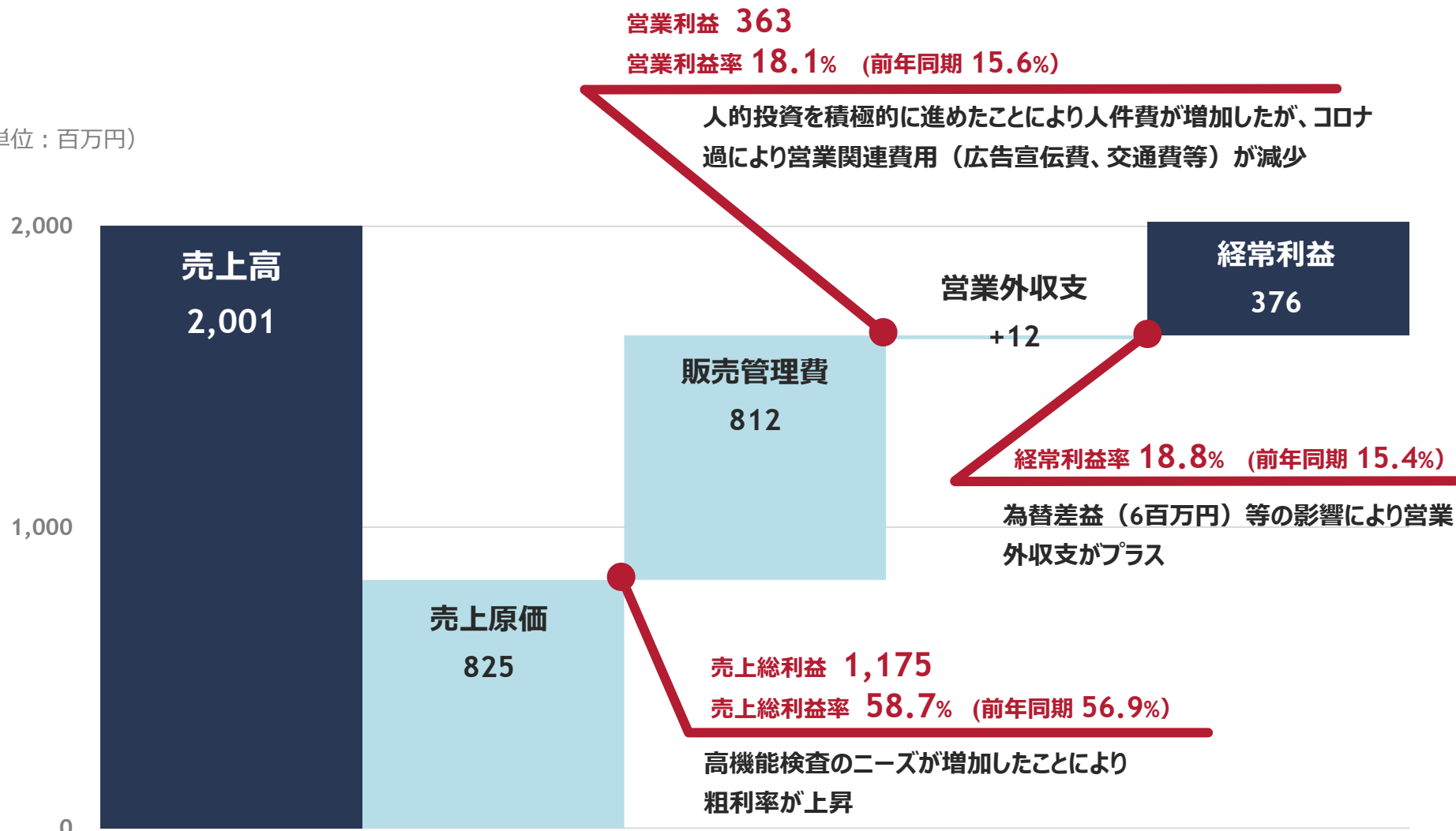
最終用途別売上高構成(連結)

- 主カスマホ向けは5G関連の電子部品を中心に堅調だったが、それ以上に車載向け、民生機器向けが増加したことによりスマホ構成比は減少（スマホ向け前年度実績：54%）



2022年 3月期 2nd QTR 連結決算経常損益分析

(単位：百万円)



2022年 3月期 2nd QTR 連結貸借対照表

2021年 3月期末

2022年 3月期
上期末

(単位：百万円)

現預金 2,395	流動負債 788
	固定負債 353
その他流動資産 1,298	純資産 2,991
固定資産 438	

現預金 2,348	流動負債 675
	固定負債 363
その他流動資産 1,484	純資産 3,264
固定資産 469	

総資産 4,132
自己資本比率 69.4%

総資産 4,303
自己資本比率 72.6%

純資産
前期末比較
+9%

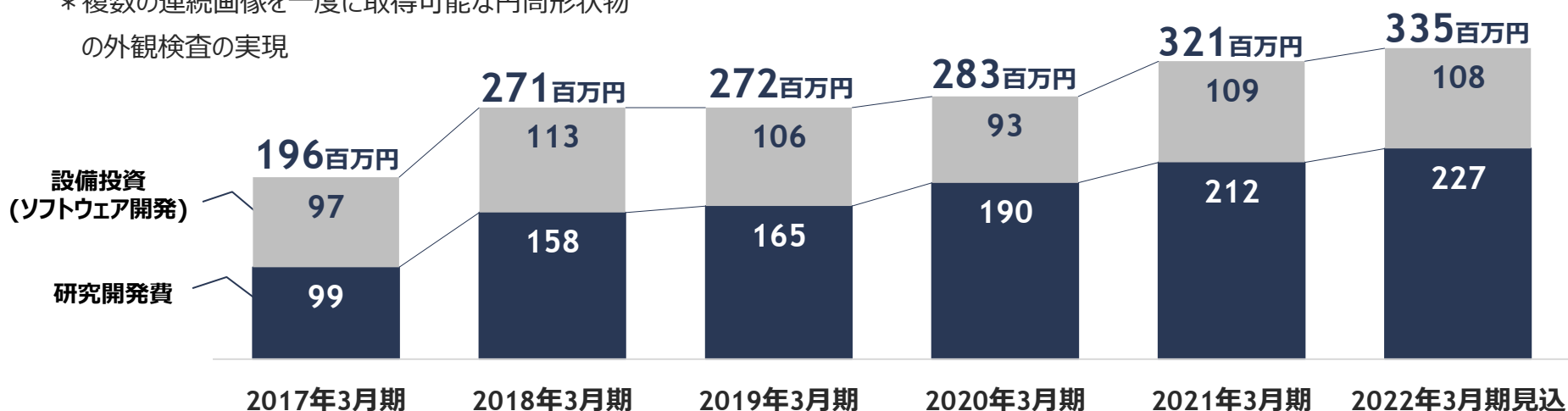
自己資本比率
前期末比較
+3.2 pt

研究開発投資 実績

- 新市場への拡販目的とした新製品開発を継続的に強化
- マシンビジョンに最適なAI開発に注力
- より広い画像検査市場向けの新たなアーキテクチャを採用した簡易型画像処理装置の研究開発強化
- 競争力向上とシェア拡大のために、
 - * 高速・高精度な高さ検査が可能な 進化した3D検査の実現
 - * 従来の技術では困難だったMEMSセンサの外観検査の実現
 - * 複数の連続画像を一度に取得可能な円筒形状物の外観検査の実現

2022年 3月期 上期実績

(単位：百万円)	1st QTR	2nd QTR	上期計	通期計画進捗率
設備投資 (ソフトウェア開発)	22	26	48	44.6%
研究開発費	59	57	116	51.2%
合計	81	83	164	49.1%

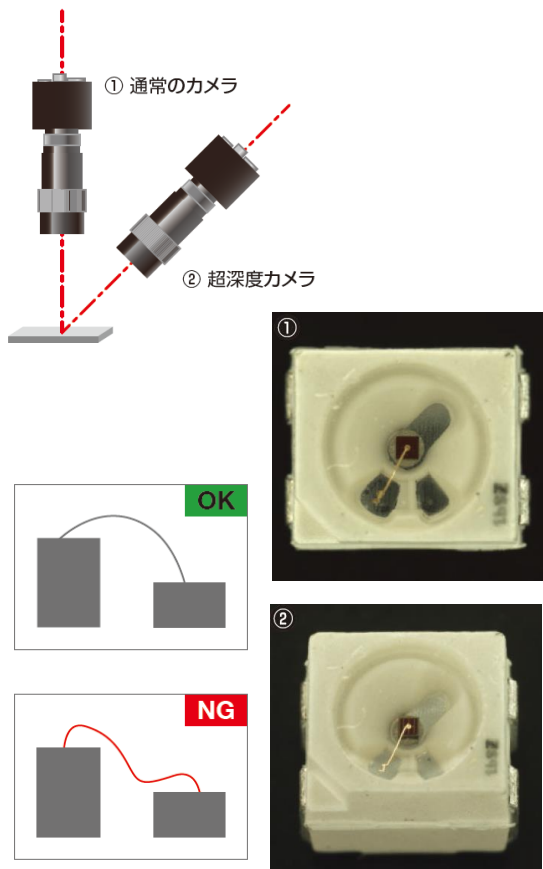


当社の成長ドライバーとなる技術

従来のステレオ計測技術に
当社の工学技術を組み合わせた

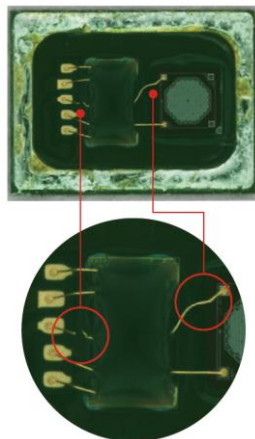
3D検査

例) LED ワイヤ高さ検査



従来技術では困難だった検査を
独自のノウハウで実現した

MEMSセンサの外観検査

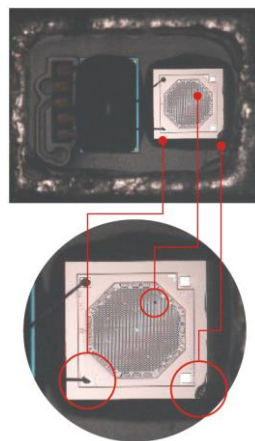


センサー部分の 外観検査

ワイヤの断線、曲がり
を検出

ICチップ部分の 外観検査

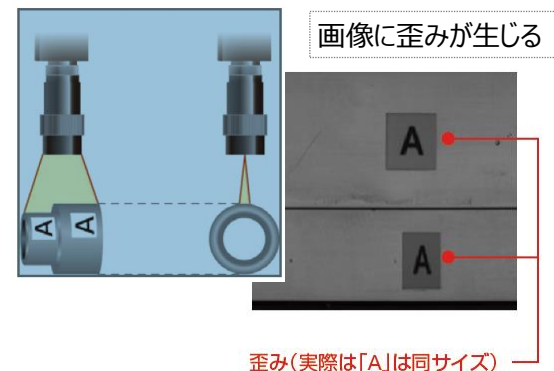
異物、欠け、ボンディング
位置のずれを検出



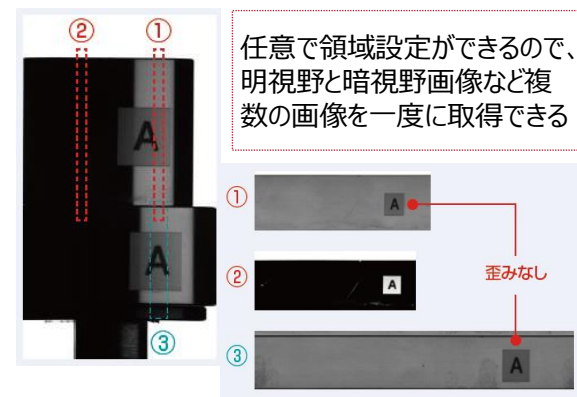
分割撮像した画像を1つに連結し
欠陥を検出できる

円筒形状物の外観検査

ラインスキャンカメラの場合

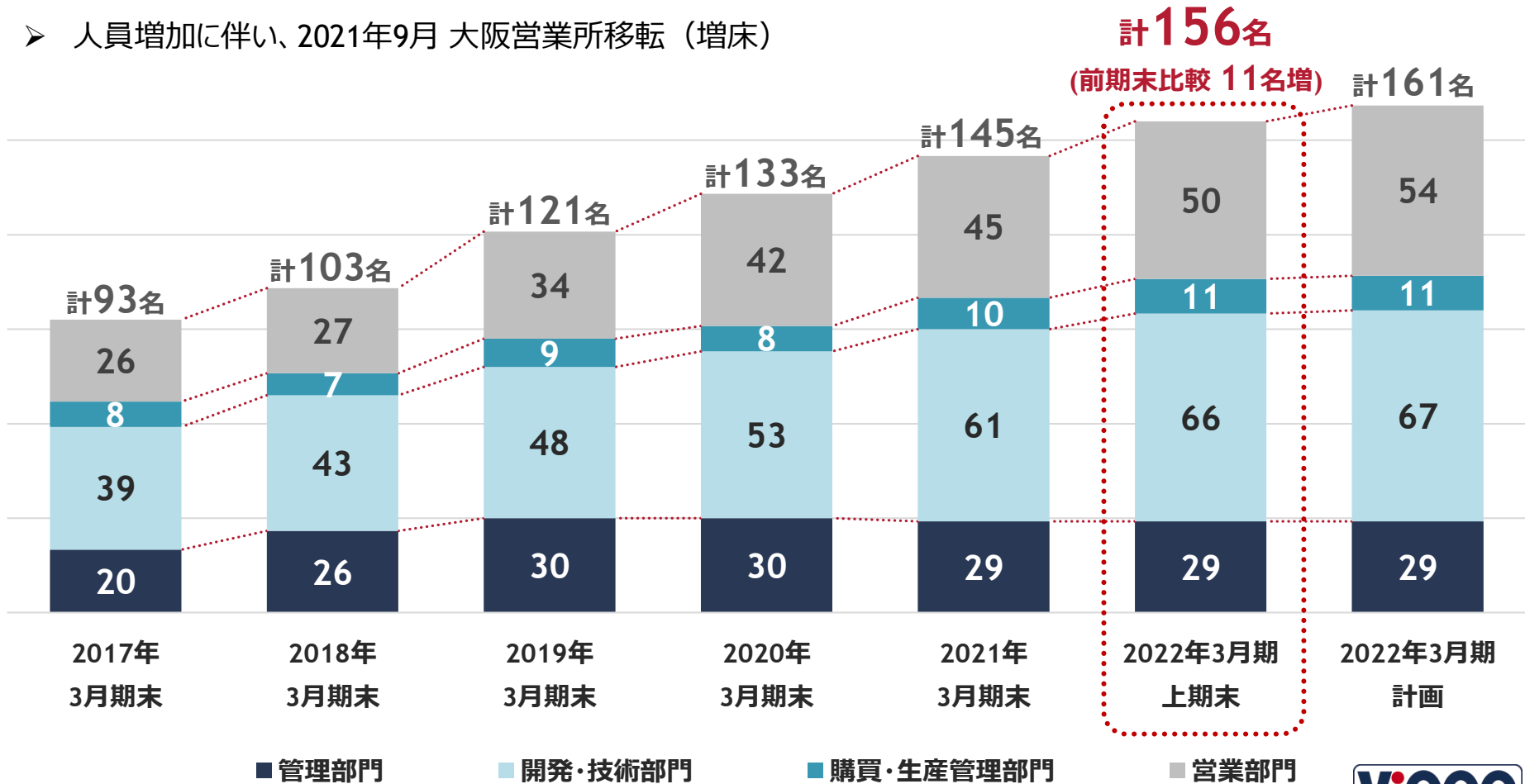


エリアカメラの場合



部門別人員推移(連結)

- 2021年4月新卒入社 6名 (営業、開発・技術部門配属)
- 技術力・開発力の発展、営業力の強化のために継続して人員増強
- 2022年4月新卒入社予定 : 7名内定
- 人員増加に伴い、2021年9月 大阪営業所移転 (増床)



1. 2022年 3月期 2nd QTR 決算概要

2. 2022年 3月期 通期業績見通し

2022年 3月期 通期計画進捗(連結)

来期スマホ新モデル向け5G関連、車載、民生機器用途中心に案件の引き合いは活発であり、下期以降も堅調に推移するとみているが、次に掲げる通り不透明な事業環境が続いており、今後の受注動向を慎重に見極めなければならぬ状況であることから、通期業績予想は据え置く。

- ✓ 世界的な半導体不足の影響
- ✓ コロナ過の影響懸念（日本は一旦収束に向かいつつあるが、海外での感染再拡大）

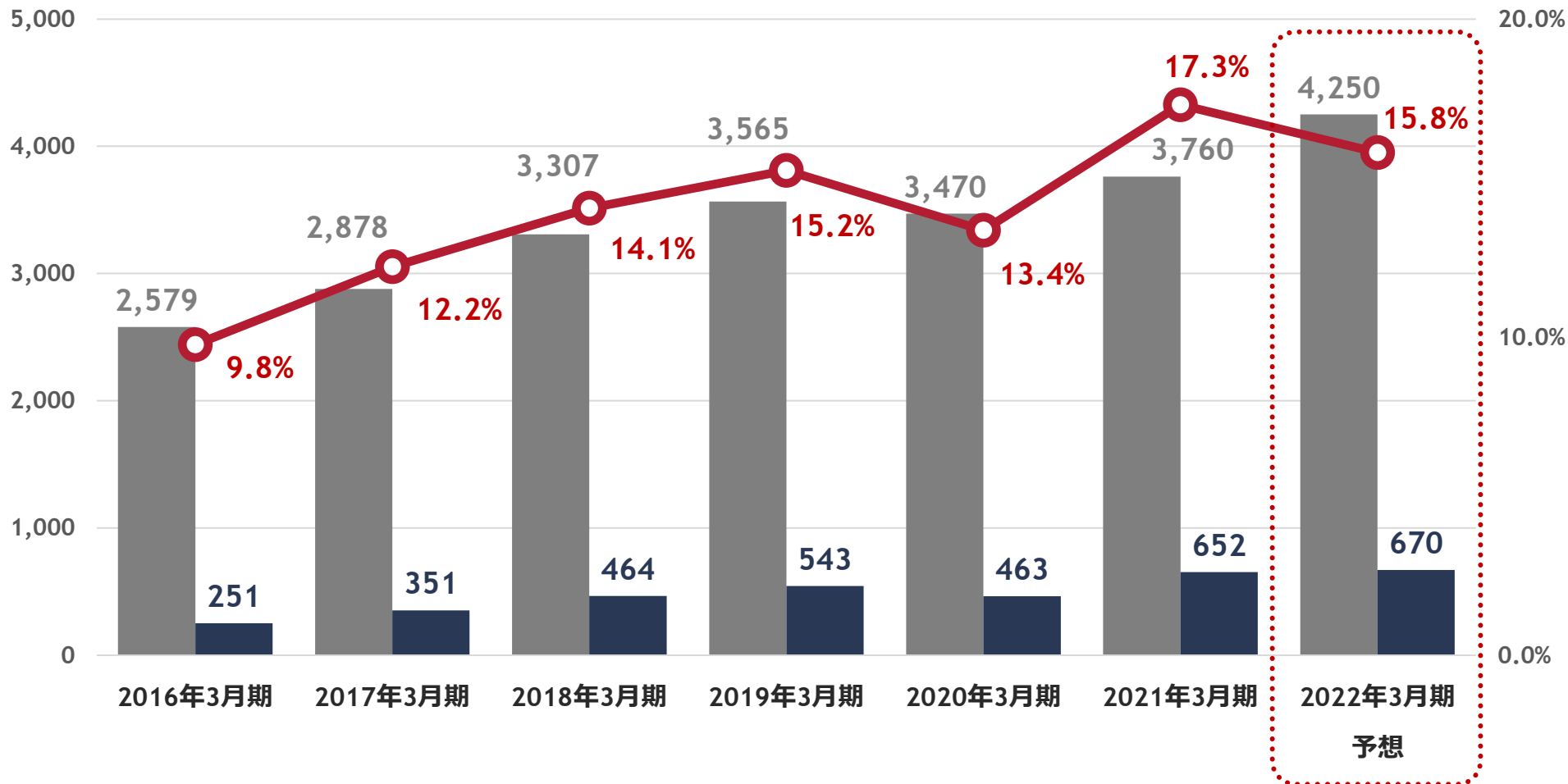
(単位：百万円)	2022年3月期 予 想 ※()は対前年実績増減率	2022年3月期 上期実績	計画 進捗率
売上高	4,250 (113%)	2,001	47.1 %
営業利益	670 (103%)	363	54.2 %
経常利益	660 (103%)	376	57.0 %
親会社株主に帰属する当期純利益	440 (102%)	245	55.8 %
一株当たり当期純利益 (単位：円) (注)	69.19 (-)	39.15	-

連結売上高・損益 推移(予想)

■ 売上高 ■ 営業利益 ○ 営業利益率

(単位：百万円)

(単位：%)



1. 品質管理体制・環境対策 の強化

- 品質環境室の設置（2022年1月1日付）により、顧客満足度向上を一層強化
- 地球環境保全の取り組みを強化

2. 新市場区分見直しに伴い「スタンダード市場」への移行選択

- 東京証券取引所 新市場区分見直しに伴い、当社は新市場区分「スタンダード市場」の上場維持基準に適合していることを背景に「スタンダード市場」への移行を選択

3. 本社オフィス増床

- 事業規模の拡大、人員増強に伴い、本社オフィスを約1.5倍に増床（2021年10月18日付）
- 働きやすいオフィス環境の更なる向上を目指す

配当の基本方針

当社は、今後の事業展開の拡大及び経営基盤の確立のための内部留保の充実を勘案しながら、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題と認識し、安定的に配当を実施していくことを基本方針としております。

また、「究極の画像処理検査装置」開発に向けた開発投資も重要施策の一つでもありますため、当社はこの二つのバランスを考えつつ、適宜、最適な配当還元を行ってまいります。

※ 2022年3月期末配当 未定（2021年3月期末配当実績 8円）

* 中期経営計画について

現在、新たな中期経営計画の策定中でありますので、改めまして適切なタイミングで当社中長期ビジョンを公表する予定です。

事業環境が不透明な時期ではありますが、アフターコロナに向けた経済構造の変化、テクノロジーの更なる進化を見据え、グローバルに成長できる企業を目指してまいります。

Appendix

会社概要

画像処理検査といえば “ ViSCO ”

画像処理技術を広めることにより
豊かな社会づくりに貢献する

画像-筋

“究極の画像処理システム”
を追及する

顧客満足度の高い画像ビジネスの
トータル・ソリューションを創造し、
画像処理システムクリエイターとなる



持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択されました2030年までの世界共通の国際目標です。SDGsでは、「誰一人取り残さない（No one will be left behind）」という基本理念のもと、SDGsが掲げる17の目標は、官民、営利、非営利、組織、個人の区別なく、持続可能な世界を目指し、皆で協力して取り組むことが求められています。

サステナビリティ基本方針

ヴィスコ・テクノロジーズグループは

あらゆるステークホルダーの期待を受け止め

企業理念に掲げる「画像一筋」に従い

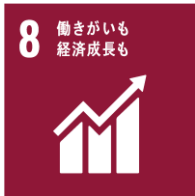
事業活動を通じて

持続可能な社会の実現と

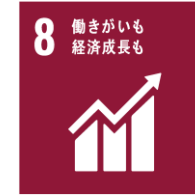
企業価値の向上を目指します

サステナビリティ重点課題

事業活動による取り組み

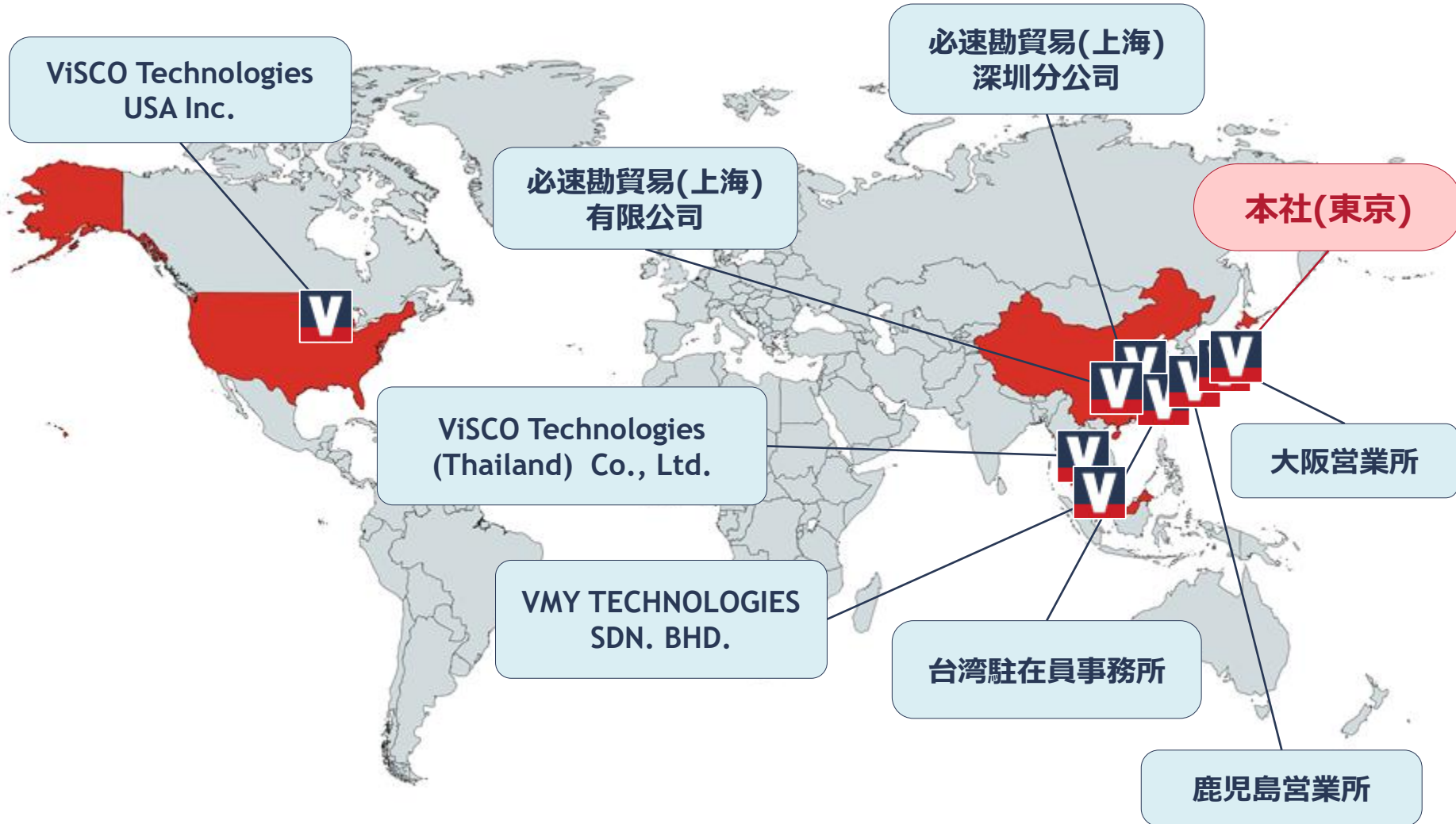


事業活動を支える取り組み



当社グループは、当社製品・サービスをご提供することで、産業革新の促進、工場等の生産性や効率性の向上、働く人々の安心安全な労働環境確保を追求し続けてまいります。
また、活発で多様性のある組織づくりを目指し、従業員の「幸せ」を追求するのと同時に、平和で公正な社会の実現に向けて事業活動を続けてまいります。

会社名	ヴィスコ・テクノロジーズ株式会社
代表取締役社長	足立 秀之
本社所在地	東京都港区海岸1丁目11番1号ニューピア竹芝ノースタワー
設立	2003年8月
資本金	491百万円（2021年 9月末現在）
国内事業拠点	大阪、鹿児島
海外事業拠点	中国（上海、深圳）、タイ（バンコク）、米国（イリノイ州）、マレーシア（ペナン州）、台湾（台北）
従業員数	156名（2021年 9月末現在）
事業内容	画像処理検査装置の開発、製造、販売
証券コード	東京証券取引所市場第二部 （6698）



2003年 8月



ViSCO Technologies 株式会社 設立

私たちは、画像一筋です。

2008年 3月

筐体型画像処理検査装置VTV-9000 シリーズ発売



2010年 3月



必速勘貿易(上海)有限公司 設立

2012年 2月



ViSCO Technologies (Thailand)Co., Lte. 設立

2014年 3月



ViSCO Technologies USA, Inc. 設立

2017年 12月

東京証券取引所 JAQSDAQ (スタンダード) 市場 株式上場

2018年 12月

東京証券取引所 市場第二部 上場市場変更

2019年 10月



VMY TECHNOLOGIES SDN. BHD. 設立

IR に関するお問い合わせ

本件に関するお問い合わせは、
管理本部 IR担当までお願い申し上げます。

Tel : 03-6402-4500

Mail : info-ir@visco-tech.com

本資料は証券投資に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。また、本資料には、計画、方針、経営戦略などといった、将来に関する記述があります。これらの記述は、当社が現在入手している情報に基づく予測、計画等を基礎として作成しているものであり、不確定要素を含んでいます。従って、様々な要因の変化により、実際にはこれらの記述と異なる結果となる可能性があります。

そのため、実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様ご自身のご判断で行うようお願いいたします。また、投資に際して生じたいかなる損失に対し当社が責任を負うものではありません。

私たちは、画像一筋です。